

食品安全情報（微生物） No.2/ 2019（2019.01.23）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

(<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>)

目次

[【米国疾病予防管理センター（US CDC）】](#)

1. 生のスプラウトに関連して複数州にわたり発生したサルモネラ（*Salmonella* Montevideo）感染アウトブレイク（最終更新）

[【カナダ公衆衛生局（PHAC）】](#)

1. 公衆衛生通知：生の七面鳥肉および生の鶏肉に関連して発生しているサルモネラ感染アウトブレイク（2019年1月8日付更新情報、2018年12月21日付初発情報）

[【欧州疾病予防管理センター（ECDC）】](#)

1. アウトブレイクの探知および疫学報告書の作成に役立つ公衆衛生専門家向けの新しいツール

[【欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE）】](#)

1. 食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF：Rapid Alert System for Food and Feed）

[【欧州食品安全機関（EFSA）】](#)

1. 欧州連合（EU）域内の人獣共通感染症、その病原体および食品由来アウトブレイクの傾向と感染源に関する年次要約報告書（2017年）

[【ドイツ連邦リスクアセスメント研究所（BfR）】](#)

1. 食品中のウイルスおよび抗菌剤耐性菌

[【デンマーク国立血清学研究所（SSI）】](#)

1. 2017年にレジオネラ症患者数が増加

[【ProMed mail】](#)

1. コレラ、下痢、赤痢最新情報 2019（2）（1）
-

【各国政府機関等】

- 米国疾病予防管理センター (US CDC: Centers for Disease Control and Prevention)

<http://www.cdc.gov/>

生のスプラウトに関連して複数州にわたり発生したサルモネラ (*Salmonella* Montevideo) 感染アウトブレイク (最終更新)

Multistate Outbreak of *Salmonella* Montevideo Infections Linked to Raw Sprouts (Final Update)

February 28, 2018

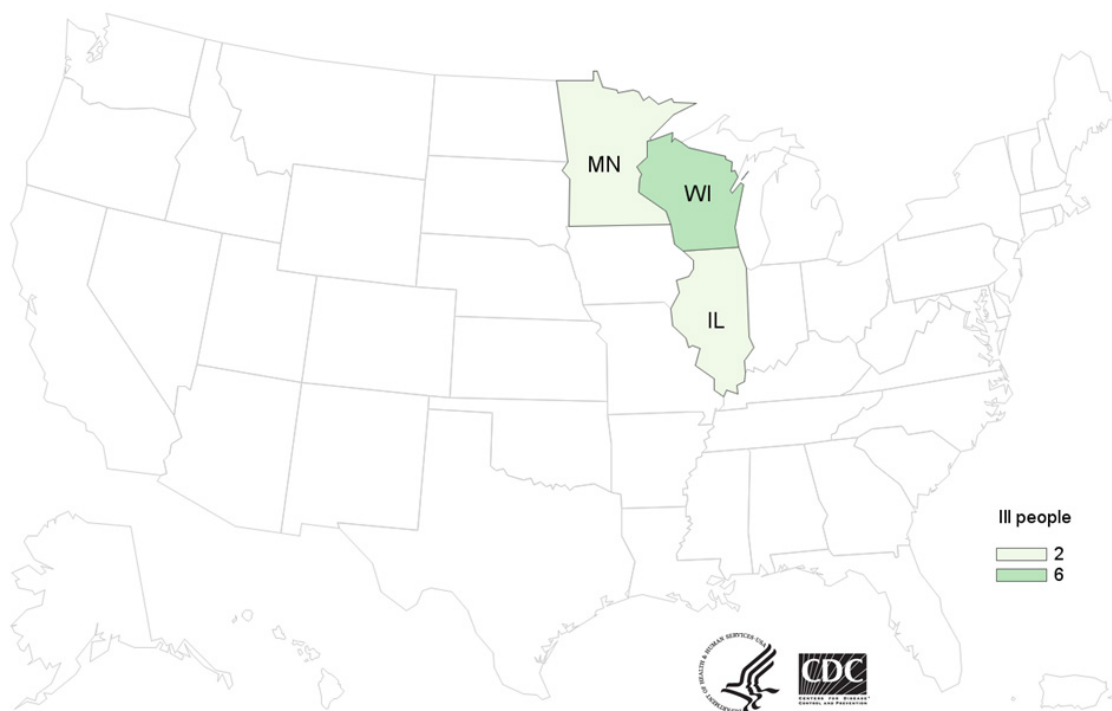
<https://www.cdc.gov/salmonella/montevideo-01-18/index.html>

米国疾病予防管理センター (US CDC)、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国食品医薬品局 (US FDA) は、複数州にわたり発生したサルモネラ (*Salmonella* Montevideo) 感染アウトブレイクを調査した。

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、アウトブレイク患者を特定するために PulseNet (食品由来疾患サーベイランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク) のシステムが利用された。PulseNet は、公衆衛生当局および食品規制当局の検査機関による分子生物学的サブタイピング結果を CDC が統括する全米ネットワークシステムである。患者から分離されたサルモネラ株には、PFGE (パルスフィールドゲル電気泳動) 法および WGS (全ゲノムシーケンシング) 法によって DNA フィンガープリンティングが行われる。CDC の PulseNet 部門は、アウトブレイクの可能性を特定するため、このような DNA フィンガープリントの国内データベースを管理している。WGS 法による DNA フィンガープリントは、PFGE 法に比べ、より詳細な情報をもたらす。

2018年2月27日までに、*S. Montevideo* アウトブレイク株感染患者が3州から計10人報告された(図)。WGS解析により、本アウトブレイクの患者由来分離株は遺伝学的に相互に近縁であることが示された。この遺伝学的近縁関係は、本アウトブレイクの患者の感染源が共通である可能性が高いことを意味している。

図：サルモネラ (*Salmonella* Montevide) アウトブレイク株感染患者数 (2018年2月27日までに報告された居住州別患者数、n=10)



患者の発症日は2017年12月20日～2018年1月28日であった。患者の年齢範囲は26～56歳、年齢中央値は42歳で、全員が女性であった。入院患者および死亡者はいずれも報告されなかった。

アウトブレイク株について、CDCの全米抗菌剤耐性モニタリングシステム (NARMS) 検査部門が標準的な方法による抗生物質感受性試験を行った結果、1株は抗生物質耐性を示さず、1株はストレプトマイシンに耐性を示した。ストレプトマイシンはサルモネラ感染患者の治療に通常は使用されない抗生物質である。

アウトブレイク調査

疫学的エビデンスは、生のスプラウトが本アウトブレイクの感染源である可能性が高いことを示した。患者に対し、発症前1週間の食品喫食歴およびその他の曝露歴に関する聞き取り調査が行われた。その結果、患者10人のうち8人(80%)がレストランチェーン Jimmy John's の複数の店舗のうちのいずれかで食事をしたことを報告した。この8人全員がイリノイ州またはウィスコンシン州の当該レストランの店舗で生のスプラウトを含むサンドイッチを喫食していた。この割合は、FoodNet(食品由来疾患アクティブサーベイランスネットワーク)が健康な人に対して過去に行った調査で、回答者の3%が調査前1週間に

スプラウトを含むサンドイッチを喫食したと回答した結果と比べて有意に高い。ウィスコンシン州の患者 2 人は、同州内の当該レストランの同じ店舗で食事をしていました。患者 1 人は、ミネソタ州の食料品店で購入した生のスプラウトの喫食を報告した。

本アウトブレイクは終息したと考えられる。本アウトブレイクの原因となった汚染スプラウトは、現在、推奨される保存可能期間を過ぎていると考えられる。FDA および州・地域の食品規制当局は、当該スプラウトの供給元および流通チェーンを特定するために追跡調査を行ったが、現在までのところ汚染源は特定されていない。

提供または販売される場所に関係なく、生および軽く加熱しただけのスプラウトは、食品由来疾患およびアウトブレイクの感染源になることが知られている。スプラウトを喫食する場合は、罹患リスクを低減させるため完全に火を通すべきである。

(食品安全情報 (微生物) No.4 / 2018 (2018.02.14) US CDC 記事参照)

● カナダ公衆衛生局 (PHAC: Public Health Agency of Canada)

<http://www.phac-aspc.gc.ca/>

公衆衛生通知：生の七面鳥肉および生の鶏肉に関連して発生しているサルモネラ感染アウトブレイク (2019 年 1 月 8 日付更新情報、2018 年 12 月 21 日付初発情報)

Public Health Notice — Outbreak of *Salmonella* illnesses linked to raw turkey and raw chicken

January 8, 2019 — Update

December 21, 2018

<https://www.canada.ca/en/public-health/services/public-health-notices/2018/outbreak-salmonella-illnesses-raw-turkey-raw-chicken.html>

2019 年 1 月 8 日付更新情報

○調査の概要

2019 年 1 月 8 日までに、本アウトブレイクに関連して計 33 人のサルモネラ (*Salmonella* Reading) 感染確定患者が報告されており、州別の内訳はブリティッシュ・コロンビア (9 人)、アルバータ (8)、サスカチュワン (2)、マニトバ (10)、オンタリオ (3) およびニューブランズウィック (1) である。患者の発症日は 2017 年 4 月～2018 年 12 月上旬で、6 人が入院し、1 人が死亡した。患者の年齢範囲は 0～93 歳で、患者の 55% が女性である。

2018年12月21日付初発情報

カナダ公衆衛生局（PHAC）は、複数州の公衆衛生当局、カナダ食品検査庁（CFIA）およびカナダ保健省（Health Canada）と協力し、サルモネラ（*Salmonella* Reading）感染アウトブレイクを調査している。

現在までの調査結果にもとづき、可能性が高い感染源として生の七面鳥肉および生の鶏肉製品への曝露が特定されている。患者の多くが、発症前に様々な種類の七面鳥肉・鶏肉製品を喫食したことを報告した。

現在実施中の調査の対象患者の約半数は2018年10～11月に発症したが、遺伝学的解析から、患者発生は2017年にまで遡ることがわかっている。PHACへの患者の報告が続いていることから、本アウトブレイクは継続していると考えられる。

○調査の概要

2018年12月21日までに、本アウトブレイクに関連して計22人の*S. Reading*感染確定患者が報告されており、州別の内訳はブリティッシュ・コロンビア（9人）、アルバータ（7）、マニトバ（5）およびニューブランズウィック（1）である。患者の発症日は2017年4月～2018年11月中旬で、5人が入院し、1人が死亡した。患者の年齢範囲は0～93歳で、患者の64%が女性である。

2018年10～11月に*S. Reading*感染患者が増加したことから、合同アウトブレイク調査が開始された。全ゲノムシーケンシング（WGS）法により、2017年にまで遡る一部のサルモネラ感染患者が、2018年10～11月に発生した患者のサルモネラ株と遺伝学的に同一の株に感染していたことが確認された。調査中の患者の約半数が2018年10～11月に発生した。

米国疾病予防管理センター（US CDC）は、生の七面鳥肉への曝露に関連して米国の複数州にわたり発生している類似のサルモネラ感染アウトブレイクを調査している。米国では、このアウトブレイクに関連した一部の七面鳥肉製品が回収されている。これらの製品はカナダには輸入されておらず、カナダ市場に流通していない。

（食品安全情報（微生物）No. 24 / 2018 (2018.11.21) US CDC 記事参照）

● 欧州疾病予防管理センター（ECDC: European Centre for Disease Prevention and Control）

<http://www.ecdc.europa.eu/>

アウトブレイクの探知および疫学報告書の作成に役立つ公衆衛生専門家向けの新しいツール

New tools for public health experts: Outbreak detection and epidemiological reports

17 Dec 2018

<https://ecdc.europa.eu/en/news-events/new-tools-public-health-experts-outbreak-detection-and-epidemiological-reports>

欧州疾病予防管理センター（ECDC）は、感染症に関するサーベイランスデータを解析する 2 種類の R パッケージソフトウェアを発表した。これらは、公衆衛生専門家が疫学報告書を作成する際に、また、アウトブレイクを探知する際に役立つツールである。

「EpiSignalDetection tool」は、可能性があるアウトブレイクを探知する際に役立つツールである。疾患の発生数における何らかの変化を明らかにするために、所定のサーベイランスデータに統計学的手法が適用される。このツールを利用することにより、可能性があるアウトブレイクの早期の検出および調査が可能になる。

「EpiReport tool」は、公衆衛生専門家が、ある疾患についてサーベイランスデータにもとづき疫学報告書を作成する際に利用できる。ECDC の年次疫学報告書と類似した内容（患者の地理的分布、発生動向、季節性など）の報告書を作成することができる。

これらの R パッケージソフトウェアは ECDC の Web サイトから無料でダウンロードできる。

（ダウンロードサイト 1）

EpiSignalDetection tool

17 Dec 2018

疫学的シグナルを検出するためのツールである。公衆衛生専門家および疫学者はこれを利用することにより、疾患発生数の変化にもとづきアウトブレイクの発生の徴候を探知できる。

<https://ecdc.europa.eu/en/publications-data/episignaldetection-tool>

（ダウンロードサイト 2）

EpiReport tool

17 Dec 2018

特定の疾患について、ECDC の年次疫学報告書に類似した疫学報告書をマイクロソフト Word で作成するためのツールである。スタンドアロン機能により、報告書において各疾患特有のデータが図表により示されるようデザインされている。

<https://ecdc.europa.eu/en/publications-data/epireport-tool>

-
- 欧州委員会健康・食品安全総局 (EC DG-SANTE: Directorate-General for Health and Food Safety)

http://ec.europa.eu/dgs/health_food-safety/index_en.htm

食品および飼料に関する早期警告システム (RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed)

http://ec.europa.eu/food/safety/rasff_en

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/>

Notifications list

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/?event=searchResultList>

2019年1月4日～18日の主な通知内容

警報通知 (Alert Notification)

アイルランド産冷蔵ブラックアンガス牛タルタルステーキ肉のリステリア (*L. monocytogenes*、25g 検体陽性)、ポーランド産冷蔵七面鳥むね肉のサルモネラ (*S. Typhimurium*、25g 検体陽性)、ドイツ産イヌ用餌のサルモネラ (*S. Agona*、25g 検体 1/5 陽性)、ラトビア産冷蔵スモークサーモン (デンマーク経由) のリステリア (*L. monocytogenes*、25g 検体 2/5 陽性)、フィリピン産モリンガ (カプセル) のサルモネラ (25g 検体陽性)、アイルランド産バターのリステリア (*L. monocytogenes*、25g 検体陽性)、オーストリア産の生ソーセージの志賀毒素産生性大腸菌、ドイツ産イヌ用餌のサルモネラ (*S. Hessarek*、25g 検体 1/5 陽性)、ドイツ産乾燥豚耳のサルモネラ (*S. Derby*、*S. Livingstone*、ともに 25g 検体陽性)、ベルギー産イヌ用餌 (ドイツ経由) のサルモネラ (*S. Derby*、*S. Typhimurium* 単相性 1,4,[5],12:i:-、ともに 25g 検体陽性) など。

注意喚起情報 (Information for Attention)

イタリア産冷蔵ブッラータチーズのリステリア (*L. monocytogenes*、25g 検体陽性)、フランス産活カキのノロウイルス (GII、2g 検体陽性)、冷蔵発酵塩漬けトラウト (スウェーデンで加工、ノルウェーで包装) による食品由来リステリア (*L. monocytogenes*) アウトブレイク、ポーランド産冷蔵七面鳥肉のサルモネラ (*S. Typhimurium*)、ポーランド産冷蔵鶏肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*、*S. Infantis*、ともに 25g 検体陽性)、ドイツ産イヌ用餌のサルモネラ、ポーランド産冷蔵七面鳥とたいのサルモネラ (*S. Typhimurium*、25g 検体

陽性) など。

フォローアップ喚起情報 (Information for follow-up)

デンマーク産冷蔵解凍スモークサーモン (真空包装) のリステリア (*L. monocytogenes*, 5/5 検体<10 CFU/g)、スペイン産トロピカルジュースのカビ、ラトビア産冷蔵スモークサーモンのリステリア (*L. monocytogenes*, 25g 検体陽性)、オランダ産すりおろしモッツアレラチーズのリステリア (*L. monocytogenes*, 25g 検体陽性)、ポーランド産魚粉の腸内細菌科菌群 (9,000 CFU/g)、ドイツ産菜種ミールのサルモネラ (*S. Tennessee*, 250g 検体陽性)、イタリア産大豆ミールのサルモネラ (*S. Senftenberg*, 25g 検体陽性)、オーストリア産有機ヒマワリ搾油粕のサルモネラ (25g 検体陽性) など。

通関拒否通知 (Border Rejection)

アルゼンチン産落花生のカビ、ウガンダ産有機ゴマ種子のサルモネラ (25g 検体陽性)、スーダン産ゴマ種子のサルモネラ (*S. Cubana*, 25g 検体陽性)、インド産ゴマ種子のサルモネラ (25g 検体陽性)、スーダン産ゴマ種子のサルモネラ (250g 検体陽性)、スーダン産白ゴマ種子のサルモネラ (*S. Senftenberg*, 25g 検体 1/5 陽性)、スーダン産ゴマ種子のサルモネラ (*S. Vleuten*, 25g 検体陽性)、カザフスタン産有機大豆搾油粕 (ロシア経由) のサルモネラ (*S. Typhimurium*, 25g 検体陽性)、ロシア産菜種ミールのサルモネラ (*S. Münster*, 25g 検体陽性)、スーダン産白ゴマ種子のサルモネラ (*S. Ruiru*, 25g 検体 1/5 陽性)、中国産イヌ用餌のサルモネラ (*S. Newport*, 25g 検体陽性)、スーダン産ゴマ種子のサルモネラ (*S. Kentucky*, *S. Mbandaka*, とともに 25g 検体陽性)、ナイジェリア産ゴマ種子のサルモネラ (25g 検体 1/5 陽性)、スーダン産白ゴマ種子のサルモネラ (*S. Kisii*, *S. Millesi*, *S. Munchen*, いずれも 25g 検体陽性)、スーダン産ゴマ種子のサルモネラ (*S. Ank*, 25g 検体 1/5 陽性) など。

● 欧州食品安全機関 (EFSA: European Food Safety Authority)

<http://www.efsa.europa.eu>

欧州連合 (EU) 域内の人獣共通感染症、その病原体および食品由来アウトブレイクの傾向と感染源に関する年次要約報告書 (2017 年)

The European Union summary report on trends and sources of zoonoses, zoonotic agents and food-borne outbreaks in 2017

12 December 2018

<https://efsa.onlinelibrary.wiley.com/doi/epdf/10.2903/j.efsa.2018.5500> (報告書 PDF)

欧州食品安全機関（EFSA）および欧州疾病予防管理センター（ECDC）による本報告書は、欧州の37カ国（欧州連合（EU）加盟28カ国および非加盟9カ国）により2017年に実施された人獣共通感染症モニタリングの結果を記載したものである。

最も多く報告された人獣共通感染症はカンピロバクター症であったが、EUにおいて2008年以降にみられた確定患者数の増加傾向は2013～2017年には顕著ではなかった。

EUにおいてサルモネラ症確定患者数は2008年以降減少傾向にあったが、この傾向は2013～2017年に終了した。また、サルモネラ症確定患者に占める *Salmonella* Enteritidis 感染患者の割合が上昇したが、これは主に加盟1カ国が血清型に関するデータの報告を開始したことによる。加盟16カ国が家禽類でのサルモネラ低減目標のすべてを達成したが、加盟12カ国は少なくとも1つの目標を達成できなかった。繁殖鶏、産卵鶏、ブロイラーおよび肥育七面鳥での標的サルモネラ血清型の群汚染率はEUレベルで2016年と比べ低下または安定的であったが、繁殖七面鳥ではやや上昇した。ブタとたいのサルモネラ汚染率および家禽類での標的サルモネラ血清型汚染率は、当局による結果の方が食品事業者による結果より概して高い傾向にあった。

リステリアについては、そのまま喫食可能な（ready-to-eat）食品でEUの食品安全基準を超えることがほとんどなかったにもかかわらず、リステリア症患者の報告率は2017年にさらに上昇した。

EUのエルシニア症確定患者数は2008年以降減少傾向にあったが、2013～2017年はその傾向が顕著ではなかった。志賀毒素産生性大腸菌（STEC）感染確定患者数は前年と比べほぼ同レベルであった。

食品由来（水由来を含む）アウトブレイクは計5,079件が報告された。病因物質としてはサルモネラが最も多く、アウトブレイク7件につき1件が *S. Enteritidis* によるものであり、以下、その他の細菌、細菌性毒素およびウイルスが続いた。全アウトブレイクのうち37.6%が病因物質不明であった。病因物質／食品の組み合わせでは、サルモネラと卵、サルモネラと食肉・食肉製品が最も高リスクであった。

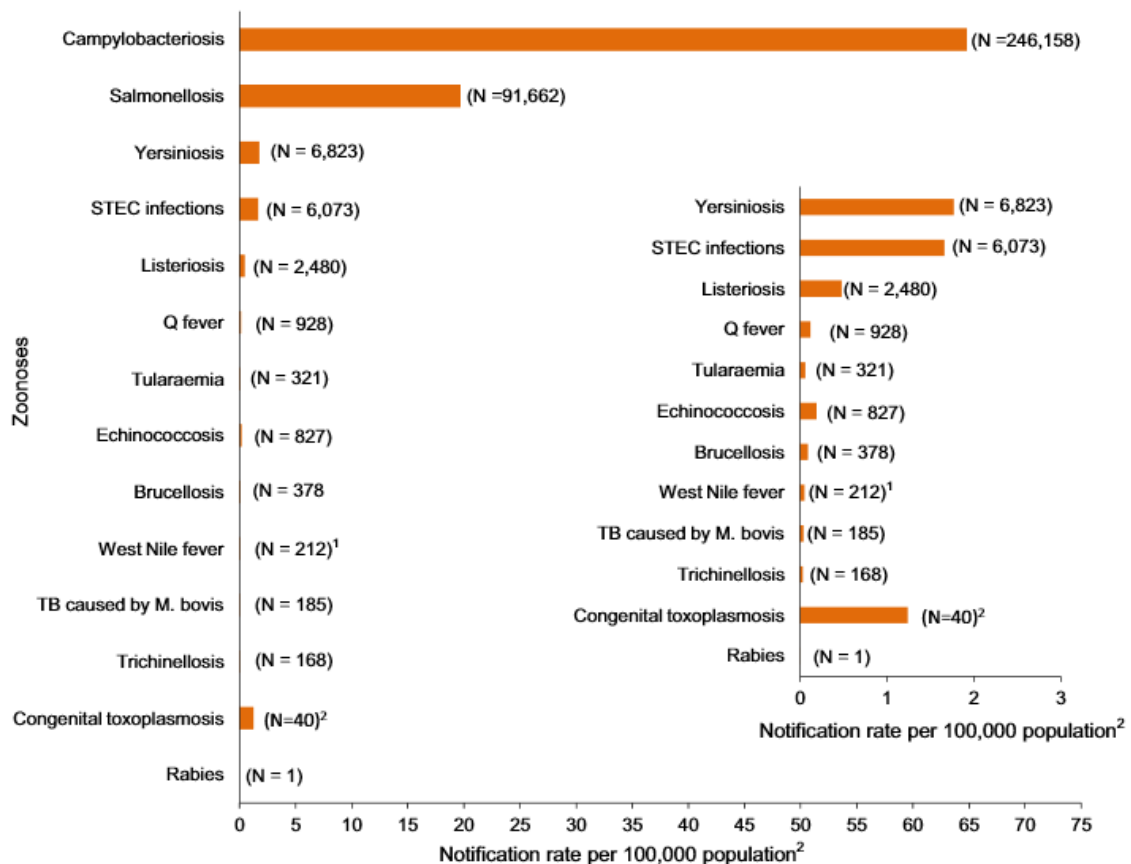
本報告書には、ウシ結核、ブルセラ症、トリヒナ症、エキノコックス症、トキソプラズマ症、狂犬病、Q熱、ウエストナイル熱、および野兔病についても患者発生の傾向と感染源の概要が記載されている。

2017年のEU域内の人獣共通感染症の概要

本報告書に示された14種類の人獣共通感染症の確定患者数のデータが図1にまとめられている。2017年に報告された人獣共通感染症では、カンピロバクター症が全報告患者の約70%を占め、この傾向は2005年以降継続している。カンピロバクター症に続き、サルモネラ症、エルシニア症、STEC感染症などの細菌性疾患が高頻度に報告された。各疾患の重症度について、報告患者の入院率および転帰にもとづく分析が行われた（表1）。このデー

タによると、入院率および致死率の高さからリステリア症が最も重症度の高い人獣共通感染症で、ウエストナイル熱感染がこれに続いた。データが得られた両疾患の確定患者のほぼ全員が入院していた。当該情報が得られた確定患者のうち、リステリア症患者の 7 人に 1 人およびウエストナイル熱患者の 9 人に 1 人が死亡した。

図 1：欧州連合 (EU) 域内の人獣共通感染症の確定患者報告数および人口 10 万人あたりの報告率 (2017 年)



注) 棒グラフ右端のカッコ内の数値が確定患者報告数

¹ ウエストナイル熱は確定患者だけではなく全患者の報告数

² 先天性トキソプラズマ症の報告率は出生児 10 万人あたり

表 1：人獣共通感染症確定患者の入院率および致死率（EU、2017 年）

人獣共通感染症	確定患者数(a)	入院				死亡			
		情報判明率(%)	報告加盟国数(b)	報告入院患者数	入院率(%)	転帰判明率(%)	報告加盟国数(b)	報告死亡者数	致死率(%)
カンピロバクター症	246,158	27.6	17	20,810	30.5	72.8	16	45	0.04
サルモネラ症	91,662	43.1	14	16,796	42.5	67.8	17	156	0.25
エルシニア症	6,823	27.1	14	616	33.4	65.5	15	3	0.07
志賀毒素産生性大腸菌(STEC)感染症	6,073	41.0	18	933	37.5	66.1	21	20	0.50
リステリア症	2,480	40.4	16	988	98.6	65.8	18	225	13.8
Q 熱	928	NA(c)	NA	NA	NA	56.0	10	7	1.35
エキノкокクス症	827	31.2	14	140	54.3	30.1	14	1	0.40
ブルセラ症	378	45.8	10	104	60.1	33.9	10	1	0.78
野兎病	321	38.3	9	76	61.8	51.1	9	1	0.6
ウエストナイル熱	212	72.2	8	134	87.6	98.6	9	25	12.0
(a)									
トリヒナ症	168	44.6	9	56	74.7	40.5	9	0	0.0
先天性トキソプラズマ症	40	57.9	3	18	NA	63.2	3	0	0.0
狂犬病	1	NA(c)	NA	NA	NA	0.0	0	NA	NA

a) ウエストナイル熱は確定患者だけではなく全患者の報告数

b) すべての EU 加盟国が表中のすべての人獣共通感染症の入院患者数、死亡者数を報告したわけではない。

c) NA は当該の情報が収集されなかったことを示す。

(関連記事)

人獣共通感染症：改善傾向が停滞

Zoonotic diseases: progress has stalled

12 December 2018

<http://www.efsa.europa.eu/en/press/news/181212> (EFSA サイト)

<https://www.ecdc.europa.eu/en/news-events/zoonotic-diseases-progress-has-stalled>

(ECDC サイト)

- ドイツ連邦リスクアセスメント研究所 (BfR: Bundesinstitut für Risikobewertung)
<http://www.bfr.bund.de/>

食品中のウイルスおよび抗菌剤耐性菌

Caution, tasteless! Viruses and antimicrobially resistant bacteria in foods

06.11.2018

https://www.bfr.bund.de/en/press_information/2018/38/caution_tasteless_viruses_and_antimicrobially_resistant_bacteria_in_foods-207701.html

ドイツ連邦リスクアセスメント研究所 (BfR) は、「食品関連のウイルス」(2018年11月7日) および「フードチェーンにおける抗菌剤耐性菌」(11月8~9日) に関する2件のシンポジウムを主催した。

食品関連のウイルス

ウイルスによる食品由来疾患患者数の増加が続いている。このような疾患の例としては E 型肝炎が挙げられ、ウイルスに感染した飼育ブタおよび野生ブタから製造された食品を介して伝播する。食品由来のノロウイルスおよび A 型肝炎ウイルスの患者数も増加している。このようなウイルスの重要性の増加に対応するため、食品由来ウイルスに関する欧州リファレンス検査機関が設立された。食品中のウイルスの検出方法については近年大幅に進歩しているが、これらのウイルスの感染経路およびその伝播の防止策についてはさらなる包括的な研究が必要である。

フードチェーンにおける抗菌剤耐性菌

近年、ドイツでは畜産における抗生物質の使用量が激減している。獣医師に販売された抗菌性動物用医薬品の量が 2011 年から記録されている。抗菌性動物用医薬品の販売量は 2011 年には 1,706 トンであったが、2017 年には食肉生産量が増加したにもかかわらず約 733 トンと 57%減少した。また、BfR の VetCAb (獣医学分野での抗生物質の使用) 調査プログラムによると、ドイツ国内で家畜の治療に抗生物質を使用する頻度が低下している。

同期間に、フードチェーンにおいて複数種類の細菌に抗菌剤耐性率の低下が見られる。鶏肉および七面鳥肉生産に関連した大腸菌汚染について 2009~2016 年に行われた調査で、試験を行った抗生物質の大部分に対し、これらの大腸菌の耐性率は顕著に低下した。特に、家畜に対して高頻度または大量に投与される抗菌剤については、使用量および大腸菌の耐性率のいずれにも低下傾向がみられる。しかし、この調査によると鶏肉および七面鳥肉の生産チェーンにおいて耐性率はまだ高く、このことは、ヒトでの耐性菌および耐性遺伝子の由来としてこれらの家禽肉が非常に重要であることを意味している。

フルオロキノロン系抗菌剤については、全く問題がないわけではない。一部の種類の細菌では、フルオロキノロン系抗菌剤への耐性率が上昇している。治療で使用される頻度に

明らかな上昇傾向はみられないが、研究者らは今後の動向を注視することを推奨している。

最終選択薬と呼ばれる抗菌剤への耐性は医療にとって特に問題である。これらは、ヒトの医療で他の抗生物質による効果がみられない場合に使用される。最終選択薬の重要な代表例は、ポリペプチド性抗生物質のコリスチンである。他の抗菌剤への耐性率が上昇していることから、コリスチンは世界保健機関（WHO）によって格別に重要な抗菌剤と位置付けられている。しかし、現時点で、コリスチンは畜産において最も頻繁に使用される抗生物質の 1 つである。コリスチンの重要性に鑑み、その耐性の拡散を防止するために世界各国が連携して対策を講じる必要がある。耐性の拡散防止には、この種の抗菌剤の限定的な使用が今後不可欠である。

近年、世界各国の当局が抗菌剤耐性の拡散を防止する対策を実施している。WHO は「抗菌剤耐性に関する世界行動計画（Global Action Plan on Antimicrobial Resistance）」を開始し、ドイツ連邦政府当局は「ドイツ抗菌剤耐性戦略（DART 2020 : German Antimicrobial Resistance Strategy）」の制定により、抗菌剤耐性を低減させる方策を示した。たとえば、家畜の肥育における抗菌性動物用医薬品の適切な使用を目指し、「ドイツ薬品法 2014 年 4 月（German Drug Law of April 2014）」の第 16 回改定を行ったことが挙げられる。同業他社に比べより多くの抗菌性動物用医薬品を使用している業者は、使用量を減らすための計画書を作成して対策を実施することが義務付けられている。

● デンマーク国立血清学研究所（SSI: Statens Serum Institut）

<http://www.ssi.dk>

2017 年にレジオネラ症患者数が増加

More cases of Legionnaires' disease in 2017

13 November 2018

<https://en.ssi.dk/news/news/2018/more-cases-of-legionnaires-disease-in-2017>

2017 年には、レジオネラ症患者計 278 人がデンマーク国立血清学研究所（SSI）に報告された。これは、2016 年に比べて 65% の増加である。レジオネラ症は肺炎の一種で、レジオネラ菌（*Legionella pneumophila*）が原因菌である。高齢者や体力が衰弱した人が罹患しやすい。レジオネラ菌に汚染されたエアロゾルを吸入し、菌が肺に侵入した場合に肺炎を発症する。レジオネラ菌は生ぬるい淀んだ水の中で増殖し、様々な給水設備（屋外では主に冷却塔）由来のエアロゾルを介して感染する。しかし、デンマークでは各家庭の給水設備から感染するケースが多い。2017 年のデンマークのレジオネラ症患者計 278 人のうち、4 分の 1 が国外旅行中に感染した。患者数は 2012～2016 年の全般的な増加に続き、2017

年は大幅に増加した。

● ProMED-mail

<http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1000>

コレラ、下痢、赤痢最新情報 2019 (2) (1)

Cholera, diarrhea & dysentery update 2019 (2) (1)

18 & 9 January 2019

コレラ (AWD : 急性水様性下痢、OB : アウトブレイク)

国名	報告日	発生場所	期間	患者数	死亡者数
イエメン	1/15	ホデイダの病院 1カ所			コレラの疑い 9
			3日間	(水様性下痢)87	
		ホデイダ Zaydi 地区	2018年9~10月		33
		全国	2018年上半期	1,000未満/月 (約30/日)	
			2018年9月第1~2週	約21,000 (約1,500/日)	
			2018年10月第1週	13,000以上 (約1,900/日)	
			2018年10月第3週	約14,500 (約2,100/日)	
ケニア	1/9	ナロク郡		(死亡者含む)19 (陽性4)	2
ジンバブエ	1/9	ミッドランド州 Mberengwa		26	2
ウガンダ	1/8	カンパラ		8	3
インド	1/7	オディシヤ州		(下痢・脱水)15以上	
東・南アフリカ諸国	1/9		2018年	計約37,565	計443

(以下は各国の内訳・詳細)					
ジンバブエ	1/9		2018年	10,807	
ソマリア	1/9		2018年	6,447	
ケニア	1/9		2018年	5,782	
タンザニア	1/9		2018年	4,688	
ザンビア	1/9		2018年	4,127	
ウガンダ	1/9		2018年	2,699	
アンゴラ	1/9		2018年	1,262	
モザンビーク	1/9		2018年	863	
マラウイ	1/9		2018年	785	
ルワンダ	1/9		2018年	3	
ブルンジ	1/9		2018年	102	
ブルンジ	1/9	Rumonge	2018/12/28 に発表された OB の 12/31 までの累計	(死亡者含む)102	1
ソマリア	1/9		2018/12/25～31	(AWD/コレラ)30	
			2018/12/17～23	(AWD/コレラ)26	
		5 地域*	2017年12月～	(死亡者含む) 計 6,852	計 45
		Banadir	2018/12/25～31	30	
アンゴラ	1/9		2018年9月～第52週	(死亡者含む)312	3
		ウイジェ州	2018年第52週	20	
		ウイジェ州	2018年第51週	10	
タンザニア	1/9	キゴマ Uvinza 地区	2018年第52週	13	
		全国	2015年8月～	(死亡者含む)33,319	550
ジンバブエ	1/9		2018年第52週	10**	
			2018年第51週	(死亡者含む)17	5
			2018/9/5～	(死亡者含む)10,630	65

* Banadir、Lower Jubba、Middle Shabelle、Lower Shabelle、Hiraan

** 内訳：マシヨナランド・イースト（2人）、ミッドランド（7人）、マシヨナランド・セントラル（1人）

イエメンのコレラ

イエメンのコレラ（2017年5月からの累積患者数*）

日付	累積患者数	累積死亡者数
2018/1/7	1,029,717	2,241
2018/1/21	1,046,674	2,248
2018/1/28	1,051,798	2,252
2018/2/18	1,063,786	2,258
2018/3/17	1,080,422	2,266
2018/3/25	1,084,191	2,267
2018/4/14	1,089,507	2,274
2018/5/24	1,100,720	2,291
2018/6/10	1,107,144	未発表
2018/7/1	1,115,378	2,310
2018/9/23	1,207,596	2,518
2018/10/7	1,236,038	2,556
2018/11/11	1,309,915	2,613

* 2017年12月以前のデータについては食品安全情報（微生物）No.3 / 2018を参照

食品微生物情報

連絡先：安全情報部第二室